

JENESYS2018 大洋州第1陣（招へいプログラム）

（対象国：キリバス、クック諸島、トンガ、ニュージーランド、バヌアツ、フィジー、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦）

（テーマ：平和構築・歴史文化、スポーツ、防災・復興）の記録

1. プログラム概要

キリバス、クック諸島、トンガ、ニュージーランド、バヌアツ、フィジー、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦より「平和構築・歴史文化」「スポーツ」「防災・復興」に関心のある学生 57 名および引率者 3 名が、11 月 18 日～11 月 27 日の 9 泊 10 日の日程で訪日し、「平和構築・歴史文化」「スポーツ」「防災・復興」をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は東京都内に加え、「平和構築・歴史文化」グループは長崎県、「スポーツ」グループは大分県、「防災・復興」グループは福島県を訪問し、日本の学生との交流やホームステイの他、プログラム中、日本の歴史文化に関する知見を深めるとともに、日本の生活への理解と関心を深め、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。

また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

学生：57 名（キリバス 3 名、クック諸島 1 名、トンガ 5 名、ニュージーランド 20 名、バヌアツ 8 名、フィジー 13 名、マーシャル諸島 3 名、ミクロネシア連邦 4 名
※50 音順）

引率者：3 名（フィジー）

【訪問地】

東京都、長崎県、大分県、福島県

2. 日程

11 月 18 日（日） 成田国際空港より入国

11 月 19 日（月） 来日時オリエンテーション

【学校交流】東洋大学 【都内参観】お台場

【講義聴講】復興庁（グループ 1 C のみ）

11 月 20 日（火）～11 月 24 日（土）

グループ 1 A：長崎県訪問

グループ 1 B：大分県訪問

グループ 1 C：福島県訪問

(1) グループ 1 A

【平和構築】長崎原爆資料館、平和爆心地公園、平和公園

【交流】ホームステイ、長崎大学核兵器廃絶研究センター

【歴史文化】日本二十六聖人殉教地、大浦天主堂、有田町（有田焼の窯元訪問）、出島、長崎歴史文化博物館、グラバー園

【参観】眼鏡橋、稲佐山

(2) グループ 1 B

【スポーツ】大分スポーツ公園総合競技場、東京オリンピック・パラリンピック施設、大分県庁

【講義聴講】東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

【交流】ホームステイ

【参観】別府鉄輪温泉地区

【文化体験】お箸づくり、座禅

(3) グループ 1 C

【復興・防災】福島県庁危機管理センター、福島県環境創造センター（コミュニティタン福島）、南相馬・相馬市視察、相馬市伝承鎮魂祈念館、福島ロボットテストフィールド

【交流】ホームステイ

【体験】ガラスエッチング、リンゴ狩り、藍染め体験、郷土料理作り

【参観】十六沼公園

11 月 25 日（日）帰京後

【参観】浅草寺（全グループ）、パナソニックセンター（1 Bのみ）、そなエリア（1 Cのみ）

11 月 26 日（月）報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

【参観】明治神宮、原宿、東京タワー、増上寺（1 Aのみ）

11 月 27 日（火）成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

	
11 月 19 日 オリエンテーション	11 月 19 日 東洋大学訪問
Nov 19th Orientation	Nov 19th Visit to Toyo University
	
11 月 19 日 復興庁訪問 (1 C)	11 月 21 日 長崎平和公園訪問 (1 A)
Nov 19th Visit to the Reconstruction Agency (1C)	Nov 21st Visit to Nagasaki Peace Park (1A)
	
11 月 21 日 大分県庁訪問 (1 B)	11 月 21 日 大分スポーツ公園訪問 (1 B)
Nov 21st Visit to Oita Prefectural Government (1B)	Nov 21st Visit to Oita Sports Park (1B)

	
11 月 21 日 福島県庁危機管理センター(1 C) Nov 21st Visit to Fukushima Prefectural Risk Management Center (1C)	11 月 22 日 座禅体験 (1 B) Nov 22nd Experience of Zazen (1B)
	
11 月 22 日 保育園でパフォーマンス(1 C) Nov 22nd Performance at a Kindergarten (1C)	11 月 23 日 相馬市伝承鎮魂祈念館 (1 C) Nov 23rd Visit to Soma City Tradition, Repose of Soul and Memorial Hall (1C)
	
11 月 24 日 長崎大学での交流 (1 A) Nov 24th Exchange Program at Nagasaki University (1A)	11 月 24 日 ホストファミリーとのお別れ式 (1 B) Nov 24th Farewell Ceremony with Host Families (1B)



11 月 25 日 浅草寺	11 月 26 日 報告会
Nov 25 th Visit to Senso-ji	Nov 26 th Reporting Session

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ バヌアツ 学生

日本人はとてもフレンドリーで親切です。相手を敬うことは日本人が持っている価値のある側面の一つだと気づきました。人種が異なっても尊敬の念を持って接してくれる日本人と出会えて感謝しています。

◆ ニュージーランド 学生

私のホストマザーはあまり英語を話せなかったので、ほとんど日本語での交流となりましたが、私にとって、とても良い言葉の練習となりました。

◆ バヌアツ 学生

自分にとって一番の思い出深い経験はホームステイです。たった一泊でしたが、お風呂の入り方やヘルシーでおいしい食事、家の中では外履きからスリッパに履き替えることなど、日本についてたくさんのことを学びました。

5. 受入れ側の感想

◆ ホームステイ受入家庭

素直な子供たちで、言葉の壁もあまり気になりませんでした。機会があれば又是非おいでください。

◆ ホームステイ受入家庭

陽気な子供たちで、民宿スタッフも楽しんでいました。「相馬野馬追祭」など見れば感動したと思います。

◆ ホームステイ受入家庭

日本に興味関心を持って来ている彼らと心を通わせるのに、時間はかかりませんでした。私たち家族は、彼らを自分たちの息子のように、感じましたし、彼らも、私たちに何でも聞いてくれました。こんな田舎に居ながら、海外の青年達と、話ができ、

心を通わすことが出来るなんて、本当に幸せな時間でした。彼らのこれからの活躍をずっと、応援しています。また、この機会を作っていただいた、皆様に感謝します。ありがとうございました。

◆ ホームステイ受入家庭

一目見ただけで、遠くに住む孫を迎えたような気持ちになりました。料理と一緒に作ったり、犬と散歩に行ったり、私の暮らしのありのままを体験してもらいました。二泊三日はあっという間に過ぎて別れの時はいつも涙です。一期一会の出会いを大切に過ごして行きたいと思います。

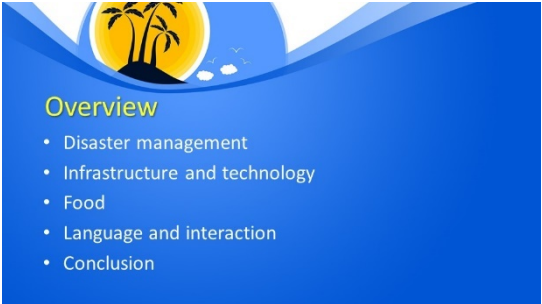
6. 参加者の対外発信

	 Six students in the Japanese programme have been selected to go to Japan for 10 days in late November under the Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths Programme. Huge congratulations to Andre Moneda, Jordan Smith, Matthew Croft, Gabrielle Gibb-Faumuina, Ryan Pearson, and Ella Sullivan. The objectives of JENESYS 2018 are (1) to promote mutual trust and understanding among the peoples of Japan and the Asia-Pacific region, and to build a basis for future friendship and cooperation and (2) to encourage an understanding of Japan's economics, society, history, diverse culture, politics and diplomatic relations. Andre, Jordan and Matthew will be taking part in the course which focuses on introducing building peaceful societies, Japanese culture and history by visiting historical and peace memorial sites in Tokyo and Nagasaki. Gabrielle, Ryan and Ella will be participating in the other course, which focuses on introducing sports, by visiting typical sites in Tokyo and Oita. We would like to wish them all the best for their stay in Japan.
Facebook にて発信 One of the best experiences ever! #Apple_picking	NZ カンタベリー大学ウェブサイトにて発信 Six students in the Japanese programme have been selected to go to Japan for 10 days in late November under the Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths Programme.

7. 現地メディアによる発信

	 Contributor: Kyodo News JBN Friday, November 16 2018 - 16:00 Group of Students from 14 Pacific Island Countries, Australia and New Zealand to Visit Japan under Japan's Friendship Promotion Program "JENESYS2018" KOMAGANE, Japan, Nov. 16, 2018 (Kyodo JBN-AsiaNet)-- The Japan Overseas Cooperative Association "JOCA" will be holding a youth exchange program for Oceanian countries called JENESYS2018 in cooperation with the Ministry of Foreign Affairs of Japan and the University of the South Pacific. The invitation program will take place in Tokyo and other cities throughout Japan for a duration of about 10 days. Participants will learn about strengths, allures and values of Japan through various activities, such as visiting facilities of local industries, disaster prevention, peacebuilding, sports and cultural sites. In addition, the participants will mingle with Japanese citizens through school exchanges and homestays.
1 陣の訪日について 共同通信・アジアネットによる配信	
	The Japan Overseas Cooperative Association "JOCA" will be holding a youth exchange program for Oceanian countries called JENESYS2018 in cooperation with the Ministry of Foreign Affairs of Japan and the University of the South Pacific. The invitation program will take place in Tokyo and other cities throughout Japan for a duration of about 10 days. Participants will learn about strengths, allures and values of Japan through various activities, such as visiting facilities of local industries, disaster prevention, peacebuilding, sports and cultural sites. In addition, the participants will mingle with Japanese citizens through school exchanges and homestays.

8. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 Overview - Disaster management - Infrastructure and technology - Food - Language and interaction - Conclusion	
- 他の学生たちにも JENESYS に応募するように促進する。 - 家族や友達、コミュニティの仲間に自分の経験を伝える。 - JENESYS 同窓会に参加して、JENESYS のゴールを広める。	- フィジー国立大学にも JENESYS プログラムを紹介する。 - 教会や地元の人に日本での経験を話す。 - USP の同窓会に参加して、他の USP の学生たちに日本の文化について伝える。 - JOCA と連携してバヌアツにも JENESYS チームを立ち上げてほしいということをしてフィジーの JENESYS チームに依頼する

	る。そして、私も JENESYS 応募促進の仕事に携わる。 ・日本は現代のテクノロジーや建築の最先端を行く国の一つなので、自分のコミュニティに日本文化を広める一つの方法として、(再生エネルギーなど) 自分のエンジニアプロジェクトを通じて広める。
・ To encourage other students to apply for the JENESYS 2019 program. ・ To share my experience with family members, friends and community members. ・ Looking forward to joining the JENESYS alumni group and being part of spreading the JENESYS Goal.	・ To introduce JENESYS to the National University of Fiji. ・ I plan to share my experience through social media, sharing with people from my village and church. ・ To join the USP alumni and be able to share the Japanese culture with other USP students. ・ I plan to ask the JENESYS team in Fiji if they could liaise with JOCA and setup a JENESYS team in Vanuatu and I will apply to work with them promoting this program and Japanese culture. ・ As an engineer, I believe one way to promote Japanese culture in my community is through my engineering project designs as Japan is one of the leading countries in modern technology and architecture.